

# アジア医師連絡協の日本支部へ

## ボランティア貯金700万円

### ネパールでの医療援助

満足な治療を受けられな  
いネパールの人たちへの巡  
回診療を十月から始めるア  
ジア医師連絡協議会日本支  
部（事務局・岡山市、菅波  
茂会長）に、郵政省の国際  
ボランティア貯金が約七百  
万円を贈ることを決め、三

日、同市一宮山崎の備前一  
宮郵便局で菅波会長に知ら  
せた。同会は、若手医師ら  
をメンバーに七年前発足。  
現在東南アジアを中心に、  
三百人の会員がおり、開発  
途上国での医療協力や在日  
外国人支援医療ネットワーク

クなどのボランティア活動  
をしている。  
ネパールは貧しく、乳幼  
児の死亡率は一〇%を超え  
る。同会ネパール支部は週  
一回、首都カトマンズ周辺  
で診察活動をしているが、  
衛生環境が悪いのと、貧困

のため、なかなか成果が上  
がらない。  
日本支部は、健康教育の  
指導に当たるボランティア  
の育成などに重点を置き、  
現地と共同プロジェクトを  
計画。日本からは医師、看  
護婦らを派遣、運営や診察

を補助する。また、診療所  
の開設や健康診断車の導入  
など、幅広く細やかな医療  
ができるようにする。  
国際ボランティア貯金は  
郵便貯金の利子の二割を淨  
財として募り、民間海外援  
助団体を通じ、開発途上国  
へ寄付する制度。今年一月  
からスタートし、今回初め  
て約九億一千万円を百二団  
体、百四十八事業に配分。  
県内では同会だけで、菅波  
会長は「ボランティア貯金  
の趣旨に沿えるよう成果を  
上げたい。今後は各国間の  
医師で民間緊急医療チーム  
を組みたい」と話している。